八洲学園大学紀要第 14 号（2018）、p.31~p.41

研究ノート

保育者養成校における科目「教育原理」の実践と考察

山 鹿 貴 史

A Practice and Consideration of the Principle of Education in the Training School for Early Childhood Care and Education

YAMAGA, Takashi

キーワード：保育者養成、教育原理、専修学校専門課程、短期大学通信教育、併修制度

1　はじめに

「教育原理」とは、1949（昭和 24）年の「教育職員免許法」公布以降、教員免許状取得のための教職科目の一つとして知られている。

他方で、保育者養成[1]においても、「教育原理」という科目の持つ重要性を無視することはできない。保育士養成を目的とした、児童福祉法第 18 条の 6 第 1 号にて規定されている指定保育士養成施設においては、「「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正について」（雇児発 0331 第 29 号 平成 27 年 3 月 31 日）の別紙 1「指定保育士養成施設指定基準」の別添 1 に「保育の本質・目的に関する科目」として、その科目名称、目標、内容が明記されている。また児童福祉法第 18 条の 6 第 2 号の保育士試験においても、「教育原理」の筆記試験科目が存在している。

このように「教育原理」とは、教員養成のみならず、保育士養成においても重要視されている科目であるということが伺えるが、一方でこの科目の取り扱う内容の広範さ、ならびに科目計画の困難さについては、これまで多くの識者によって指摘がされている。たとえば曽田は、

> 「保育者養成課程において教育原理の科目を計画するとき、留意しなければならないことの一つに、その間接的な性格をあげることができるのではないだろうか。つまり、そこで扱われる内容が、幼児の問題に限定されておらず、とりわけ西洋教育史や日本教育史の領域においては時代的に遡るため、学ぶ側から見れば、保育者にとってやや間接的な話題に感じられる可能性があるということである。しかし実際には、保育を包含する教育という広い領域を概観する学習が、保育者の資質を養うための重要な基礎であることは論を俟たない」（曽田 2014：27）

と述べている。また菅原はこうした問題点について、「何をその内容とするかが筆者・論者によって様々である」（菅原 2016：109）と指摘している。

さらにもう一つの問題として、専修学校専門課程（以下、専門学校と表記）と短期大学通信教育との、いわゆる「併修制度」[2]が挙げられる。保育者養成の領域おいては、前者で保育士資格、後者で幼稚園教諭免許状の取得をするための併修を行う学生層が一定数おり、またそうした併修連携を実施

している学校や教育施設も存在している。このような併修連携を行う学校等（以下、併修校と表記）において、そこで学ぶ学生は、保育士資格取得を目指す専門学校生であると同時に、幼稚園教諭免許状取得を目指す短期大学生という二重の属性を有することになるわけである。こうした学生はそれぞれの教育課程において、同じ「教育原理」という科目名称でありながら、厳密には異なった目的で開設されている 2 つの「教育原理」を学ぶことになるが、それらの科目の持つ関連性と差異とに関する事柄については、これまで表立って論じられることがあまりなかった[3)] いうことが指摘できる。

そこで本研究では、保育者養成校における授業の実践事例と、そこで実施したアンケート調査結果の分析とを考察することで、保育者養成における「教育原理」の在り方に関する問題改善への手がかりを探求することとしたい。

2　先行研究

科目「教育原理」に関しては、膨大な数の論考が存在する。学術情報検索サービスの「Ciniii」において「教育原理」のフリーワード検索を行ったところ、2018 年 2 月 18 日現在で 265 件の論考が見つかった。また「教育原理　教職」でのフリーワード検索結果は 28 件、「教育原理　保育者」では 2 件、「教育原理　保育士」では 1 件となった。

このうち、保育者養成における「教育原理」に関する論考として特筆すべきものに、前出の曽田が挙げられる。曽田はその研究「保育者養成のための教育原理における系統主義と経験主義をめぐる諸問題」（曽田 2014）について、系統主義と経験主義という「この二分法的枠組みに便宜的に着目しつつ教育原理の科目を構成すること」に着目し、「学習者の理解を促進するために、教育原理をこの二分法を軸に構成する方法について考察」しつつ、「二分法克服の可能性について考察する」もの（曽田 2014：27）であるとしている。

教職課程の「教育原理」に関する論考としては小熊が挙げられる。小熊はその内容について、同科目におけるテキスト（教科書）に着目し、「「教育原理」のテキストの書誌的分析を行い、「教育原理」は、いかなる内容を扱い、どのように取り上げたらよいのか。テキスト「教育原理」の在り方を考察してみたい」（小熊 2017：35）としている。さらにこの方向性を発展させた最新の研究としては、知念の報告も挙げられる。知念はその内容について、「できるだけ体系的な方法によって、「教育原理」の教科書の内容がどのように推移してきたのかを把握することを目的」（知念 2017：240）としている。

また前出の菅原も挙げられる。菅原は

> 「教職課程の一つでもある、この「教育原理」を取り上げ、教育学的な視角ではなく、一つのテキスト・講義・授業という観点から「教育原理」を再整理し（略）その特徴を捉えるとともに、近年の教育行為における重要なキーワードとなっているアクティブラーニングを取り上げ（略）「教育原理」という教科・科目がもつ本質的な特徴に対してアクティブラーニングという手法がどのような意義と現実的な課題をもつのかを検討する」（菅原 2016：109）

としている。

しかしこれらの論考等は、それぞれの中心的関心から、「教育原理」の科目構成の方法や、テキスト内容の書誌的な考察、またアクティブラーニングの手法考察がその主たる目的となっており、保育者

養成における「教育原理」の在り方については、これらの論考等とは違った方法でアプローチする必要もあるといえる。

よって本研究では、実際の保育者養成校での授業実践と、そこにおけるアンケート調査結果の分析との考察を、その研究方法の中心とした。

3　実践事例の紹介

3.1　授業実施・調査対象校について

本研究における実践･調査対象は､関東地方に位置する専門学校A校の保育士養成系の学科である。A校の当該学科は1学年2クラスの2学年で構成されており、このうちそれぞれの学年の1組は、近畿地方に位置する短期大学B校の通信教育課程との併修を行っている。すなわち「資格取得」という観点からみると、各学年の1組は保育士資格に加え幼稚園教諭2種免許状の取得を目指すクラス、2組は専門学校での学修のみを行い、保育士資格の取得を目指すクラス、という特徴がある。またA校は県の委託を受けた職業訓練の実施施設でもあることから、どちらのクラスにおいても幅広い年代の（職業）訓練生が一定数存在するということも、特徴として挙げられる。

3.2　事例科目の内容について

筆者がA校で担当した科目「教育原理」の各回の授業内容は、以下のとおりである（表1)。

表1　A校で実施した「教育原理」の授業内容

各回	内容
第1回	教育とは何か ―語義を基に―
第2回	人類の進化と発達　／　教育の誕生
第3回	教育の基本的理念と憲法　／　伝統文化の尊重（前）
第4回	伝統文化の尊重（後）　／　子どもの発達と教育 ―ことわざ・格言から―
第5回	学校の社会的基盤と教育連携
第6回	「生きる」とは何か ―水谷先生講演映像から―（代行回）
第7回	生涯学習と社会
第8回	教育における報告・論証
第9回	学校教育の制度　／　教育評価と学習評価
第10回	近代の教育思想１ ―ジャン＝ジャック・ルソーとその生涯―
第11回	近代の教育思想２ ―教育者・ペスタロッチ―
第12回	近代の教育思想３ ―幼児教育の祖・フレーベル―
第13回	近代の教育思想４ ―モンテッソーリとその教育―
第14回	近代の教育思想５ ―ロバート・オーエン―
第15回	幼稚園と保育所 ―各法令等から―　／　期末考査

出典：筆者作成の2017（平成29）年度の同科目シラバスより一部表記を修正し抜粋

全体のうち、第 9 回までは教育の意義、制度、方法などの広範囲な内容を扱い、第 10 回以降は主に近代の保育・幼児教育史における代表的な人物およびその思想を取り扱っているが、これは本科目においては、序～中盤までは『教育原理』（田中 2017）を、残りは『人物で学ぶ教育原理』（中村 2010）を中心的なテキストとして用いたことが、その要因[4)]として挙げられる。

また授業内では、テキストだけではなく、適宜映像教材等も用いた。以下がその一覧である（表 2）。

表 2　授業で用いた映像教材等一覧

使用回	映像名	出典
第 2 回	「700 万年の歩み 人類進化の謎を追う」	NHK・サイエンス ZERO
第 3 回	「武士道と日本刀」	National Geographic
第 4 回	「心で闘う 120 秒 ～剣道・最難関試験に挑む～」	NHK・ドキュメントにっぽん
第 4 回	「超英才教育スペシャル 日本の子育て最前線」[5)]	フジテレビ・エチカの鏡
第 6 回	水谷修先生講演映像	出典不明[6)]
第 13 回	「日常生活の練習」	Youtube
第 14 回	「教材 産業革命 その 6 ロバート・オーエン」	Youtube

授業実践においては、今回特に担当者（筆者）が初めて「教育原理」を担当したということもあり、多くの部分で手探りの計画、ならびに授業実施になった[7)]ということは事実である。そうした事情もあり、各回の授業準備や担当者自身の予復習については、かなり入念に行った。また専門学校における授業ではあったが、特に序盤は初・中等教育における、いわゆる「学習指導案」的な授業進行（計画）表を作成し、それに基づいて授業を行うなど、図らずも、かつて筆者自身が養成校（大学教育学部）で学んだ「教育原理」等の知見を活かす経験も得たということは、記しておく必要があろう。

4　アンケート調査と分析

4.1　アンケート調査と結果

授業実践の検証のため、「学術研究ならびに教育活動（授業）の向上」をその目的と明記し、A 校当該学科の責任者に論文等での使用を前提とし、校名非公開および匿名式を条件に許可を得て、アンケート調査を実施した。以下はその抜粋である（図 1）。

図１　アンケート調査内容項目

１．あなたの年齢で、該当する番号を〇で囲って下さい。

（１）10 代　（２）20 代　（３）30 代　（４） 40 代　（５） 50 代以上

２．あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。該当する番号を〇で囲って下さい。

（１）全部出席　（２）1～3 回欠席　（３）4～5 回欠席　（４） わからない

３．あなたは、授業に対して予習と復習を積極的に行いましたか。該当する番号を〇で囲って下さい。

（１）十分した　（２）かなりした　（３）ときどきした　（４）あまりしなかった　（５）しなかった

４．授業の中で、特に興味を持った項目で、該当する番号を〇で囲って下さい。
また重要だと感じた内容で、該当する番号を◎で囲って下さい。（共に複数回答可）

（１）教育とは何か ―語義を基に―
（２）人類の進化と発達　／　教育の誕生
（３）教育の基本的理念と憲法　／　伝統文化の尊重
（４）子どもの発達と教育 ―ことわざ・格言から―
（５）学校の社会的基盤と教育連携
（６）「生きる」とは何か ―水谷先生講演映像から―
（７）生涯学習と社会
（８）教育における報告・論証
（９）　学校教育の制度
（１０）教育評価と学習評価
（１１）近代の教育思想１ ―J.J.ルソーとその生涯―
（１２）近代の教育思想２ ―教育者・ペスタロッチ―
（１３）近代の教育思想３ ―幼児教育の祖・ﾌﾚｰﾍﾞﾙ―
（１４）近代の教育思想４ ―ﾓﾝﾃｯｿｰﾘとその教育―
（１５）近代の教育思想５ ―R.オーエン―
（１６）幼稚園と保育所 ―各法令等から―

５．４でそう回答した理由はなぜですか。以下の欄に文章で回答して下さい。

出典：筆者作成のアンケートより一部表記を修正し抜粋

アンケート調査対象は A 校の保育士養成系学科の 1 年 1 組 15 人と、2 組 28 人の計 43 人（N＝43、2017 年 7 月 24 日当時）である。回収数は 1 組 13 人、2 組 21 人の計 34 人（n＝34）で、全体の回収率は約 79%、組別の回収率はそれぞれ 1 組が約 86.6%、2 組が 75%という結果となった。

また以下はそれぞれの質問項目の単純集計（GT）をグラフ化したものである（図 2～9）。

図 2　質問項目 1「回答者年代」（単位：人）

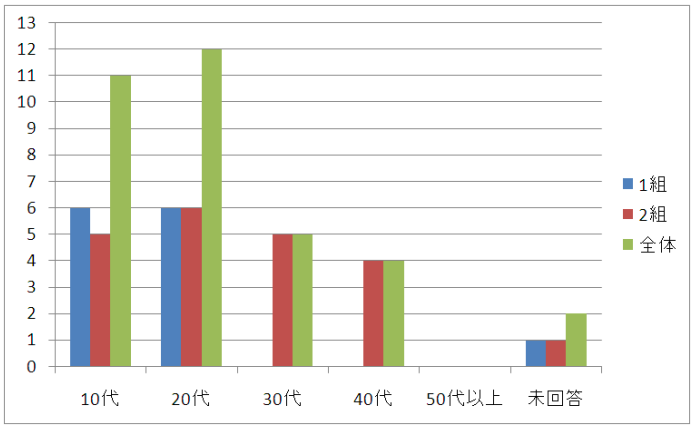


図 3　質問項目 1「回答者年代」全体割合

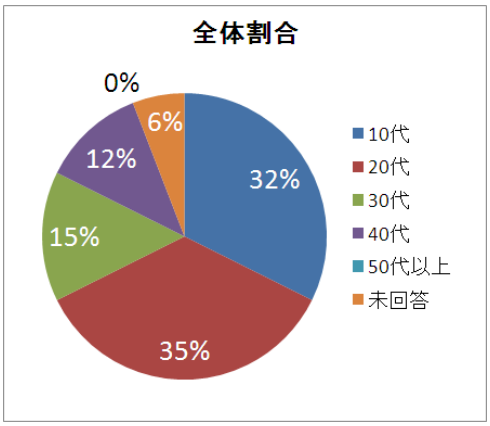


図 4　質問項目 2「出席回数」（単位：人）

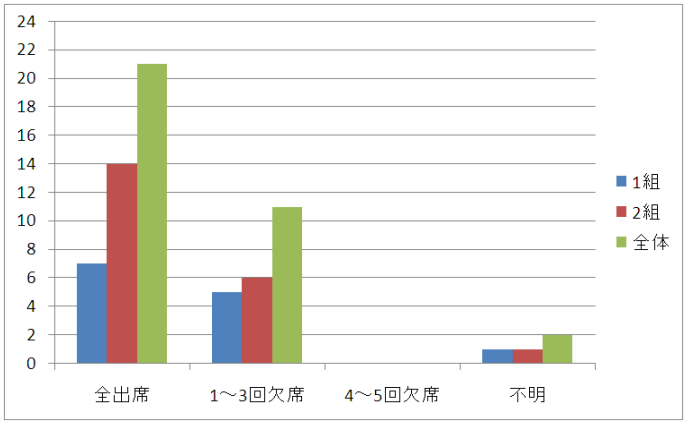


図 5　質問項目 2「出席回数」全体割合

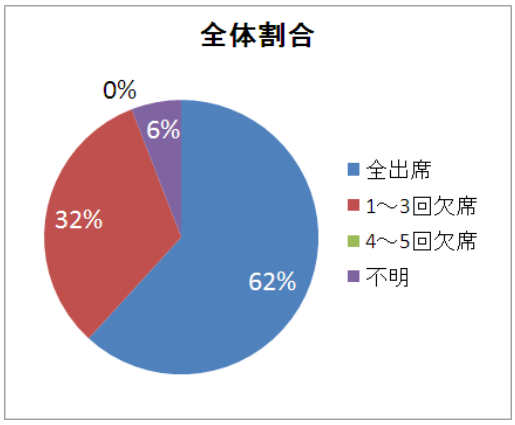


図 6　質問項目 3「予復習」（単位：人）

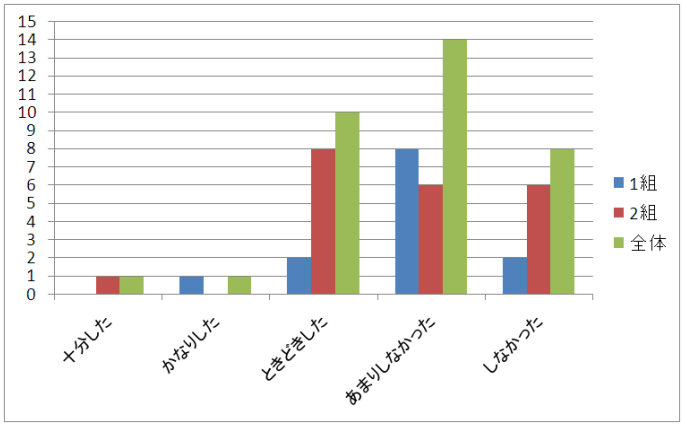


図 7　質問項目 3「予復習」全体割合

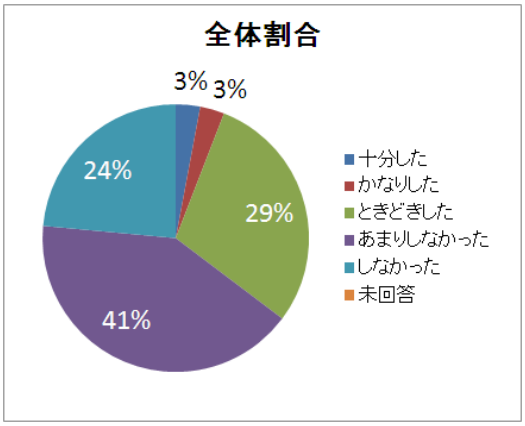


図 8　質問項目 4-1「特に興味を持った内容」（複数回答可、単位：延べ回答数）[8)]

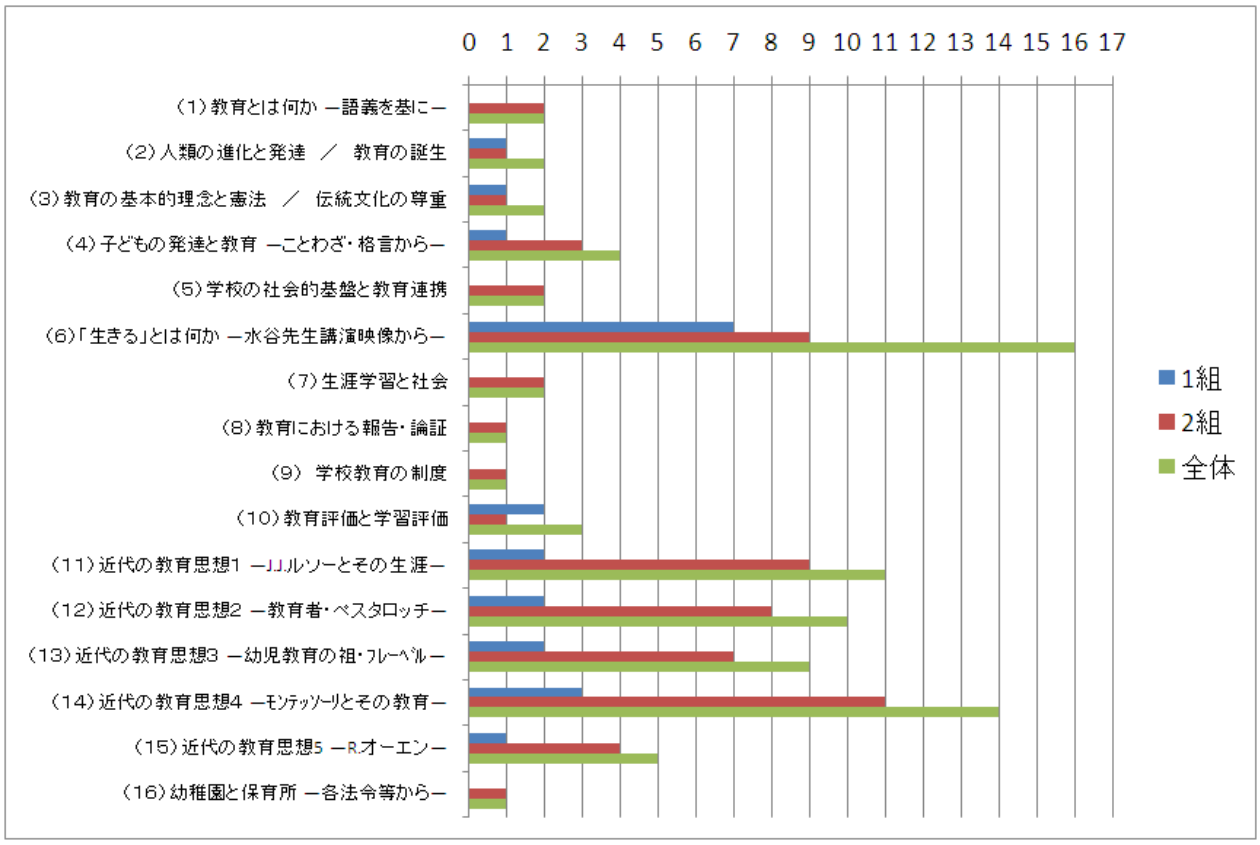
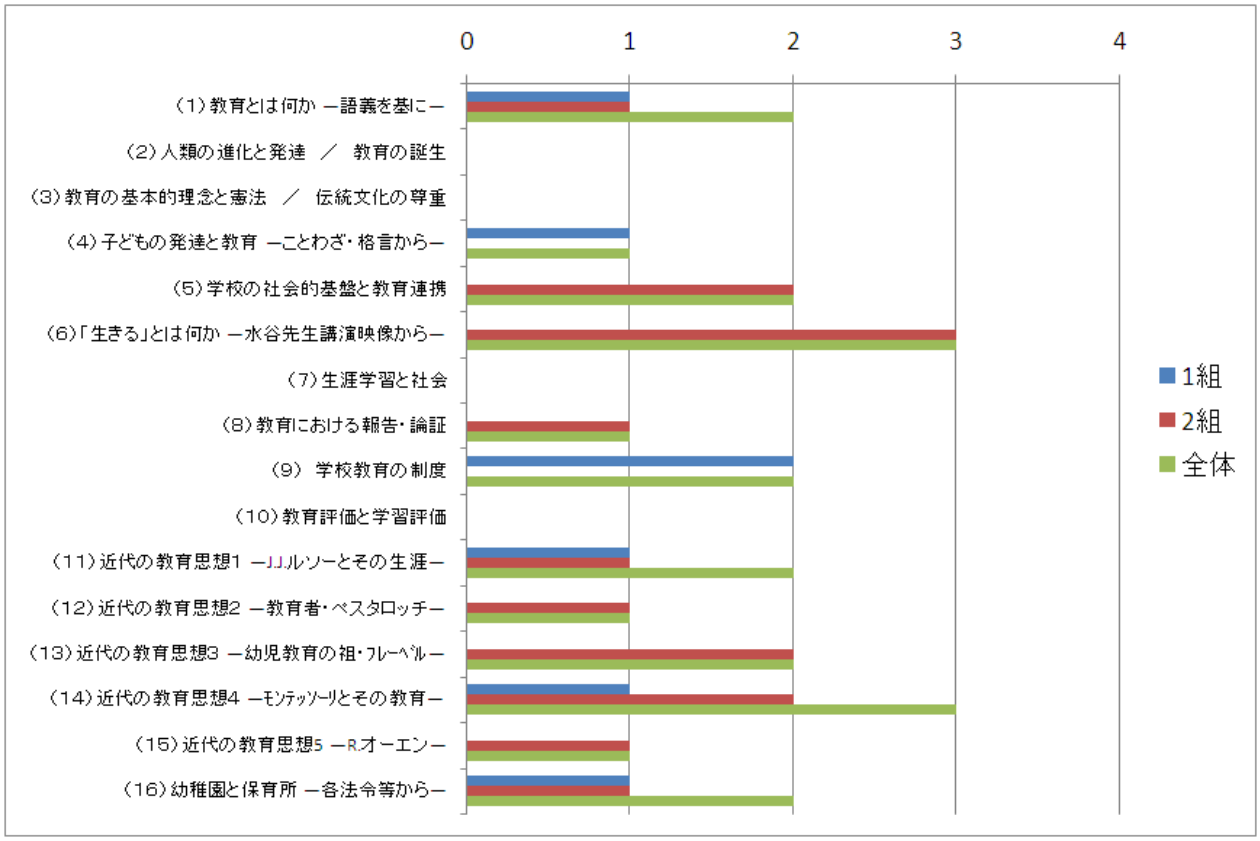


図 9　質問項目 4-2「重要だと感じた内容」（複数回答可、単位：延べ回答数）[9)]



次に、質問項目 2・3 をクロス集計[10]したものが、下記の表である（表 3・4）

表 3　質問項目 2「出席回数」[11]

出席回数		全出席	1～3 回欠席	4～5 回欠席	不明
全体 GT（n=34）		62%	32%	0%	6%
組別	1 組（併修有、n=13）	54%	38%	0%	8%
	2 組（併修無、n=21）	67%	29%	0%	5%
年代別	10 代（n=11）	45%	36%	0%	18%
	20 代（n=12）	67%	33%	0%	0%
	30 代（n=5）	100%	0%	0%	0%
	40 代（n=4）	75%	25%	0%	0%
	未回答（n=2）	0%	100%	0%	0%

表 4　質問項目 3「予復習」[12]

予復習		十分した	かなりした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった
全体 GT（n=34）		3%	3%	29%	41%	24%
組別	1 組（併修有、n=13）	0%	8%	15%	62%	15%
	2 組（併修無、n=21）	5%	0%	38%	29%	29%
年代別	10 代（n=11）	0%	0%	9%	36%	55%
	20 代（n=12）	0%	8%	42%	42%	8%
	30 代（n=5）	20%	0%	60%	20%	0%
	40 代（n=4）	0%	0%	25%	75%	0%
	未回答（n=2）	0%	0%	0%	50%	50%

4.2　調査結果の分析と考察

（1）質問項目 1「回答者年代」

年代については、10 代～20 代が多く占める一方で、30 代以上の層も全体の 3 割以上を占めていた。これは前述の（職業）訓練生の存在の規模を示す割合であるともいえる。

（2）質問項目 2「出席回数」

出席回数については、全出席が全体でも 6 割を超え、組別でもそれぞれ 5 割を超えていた。次点の 1～3 回も組別でそれぞれ 3 割前後となり、総じて良好な出席回数であったといえる。この点については、本科目の実施時期が入学後の 4～7 月であったことの影響も指摘できる。また回答者数に差異があるため、あくまで参考程度ながら、全出席のうち 10 代が 45% 、20 代が 67% という数値に対し、30・40 代は 89%[13] と、年代が上がるごとに出席率も高くなっていることが判明した。前述のとおり、30 代以上はその殆どが（職業）訓練生であったことも、この一因であるといえる。

（3）質問項目 3「予復習」

予復習については、10 代の「あまりしなかった／しなかった」が合計で 91%[14]という数値に対し、20 代の「かなりした／ときどきした」と「あまりしなかった／しなかった」の合計がそれぞれ 50%[15]、30・40 代の「十分した／かなりした／ときどきした」の合計が 56%[16]、「あまりしなかった」が 44%[17]と、こちらも年代が上がるごとに予復習を行う割合が上昇したという結果になった。

（4）質問項目 4「特に興味を持った内容」、「重要だと感じた内容」

「興味を持った内容」では、全体としては「（６）「生きる」とは何か ―水谷先生講演映像から―」が突出した回答数となった。

組別でみると、1 組は上記の回が多い一方で、2 組は「（１４）近代の教育思想４ ―モンテッソーリとその教育―」、「（１１）近代の教育思想１ ―J.J.ルソーとその生涯―」など、幼児教育思想史・人物史の回も多かったことが指摘できる。

また「重要だと感じた内容」でも、全体で最も多かったのは「（６）「生きる」とは何か ―水谷先生講演映像から―」と「（１４）近代の教育思想４ ―モンテッソーリとその教育―」という結果になった。

この結果については、この A 校を擁する学園（学校法人）の附属幼稚園において、モンテッソーリ教育が取り入れられ、また重視されていることがその要因として挙げられる。質問項目 5 の自由記述欄においても、

・附属の幼稚園がモンテッソーリ教育を取り入れているため ・モンテッソーリ教育を行っている園は多く、（A 校の附属園でも取り入れていて）今の教育に必要だと思った

出典：筆者実施のアンケートより。括弧内の傍点箇所は、筆者が一部表現を修正した。

とあることが、それを一部裏付けているともいえる。

5　総括的考察とまとめ

本研究では、保育者養成校において筆者が担当した科目「教育原理」と、そこで実施したアンケート調査分析および考察から、保育者養成における科目「教育原理」の在り方を探ってきた。

本研究で明らかになった知見として、第一に学生の本科目に対する取り組み姿勢が挙げられる。出席回数、予復習などの項目においては、若年層の学生よりも、30・40 代の学生（訓練生）の学修に対する意欲が高かったことを数値で示した。

第二に、授業内容に関する興味・関心としては、学生の多くが教育業界において著名な水谷修氏の講演映像に興味を寄せた一方で、ルソーやモンテッソーリといった、現代の保育・幼児教育の基礎を築いた人物の思想史にも興味を抱き、また重要視していることが明らかとなった。これは中村が

「本書は、まず、保育士試験合格を目標にして勉強にはげんでいる方のために書きました（略）過去の問題を見ると、人物に関する問題の出題率が平均 33%とダントツ首位です。本書のタイトルが『人物で学ぶ教育原理』であるわけがここにあります」（中村　2010：1）

と述べているとおり、保育・幼児教育思想史ならびに人物史が、学生の興味・関心という点からも、保育者養成における科目「教育原理」においては重要であることの一端を示した結果であるともいえる。

一方で本研究では、明らかにできなかった点や今後の課題も見つかった。第一に、本研究はあくまで1校における授業実践とそこで行ったアンケート調査とを基にしているため、本研究で得られた結果が、必ずしも全国的にもあてはまるとはいえない点が挙げられる。また実践事例校が県の委託を受けた職業訓練の実施施設であり、(職業) 訓練生の存在が、調査結果にも影響を与えたという点は明らかである。当該校の 30・40 代においてその殆どを占めた訓練生と、他校の訓練生ではない 30・40 代の一般学生とでは、同じ授業内容ならびにアンケート調査を行っても、その結果は大きく異なる可能性がある。

第二に、専門学校と短期大学通信教育との併修制度という点でも、今回の調査では有用な差異を見つけることはできなかった。今回の結果では、併修生とそうでない学生との間の学修に対する意欲、ならびに興味・関心という点で大きな差を見つけることはできなかったため、この併修制度がもたらす学生への影響という点においては、今回とは異なった調査の仕方が必要であるといえる。

これらの課題については、今後の研究活動で取り組んでゆくこととしたい。

6　謝辞

本研究を行うにあたり、アンケート調査の許可を頂いたA校、ならびに筆者の担当した「教育原理」で協力頂いた受講生各位に、感謝申し上げる。

注

1 ）本研究においては「保育士養成」と「保育者養成」という語が混在しているが、前者は国家資格である「保育士」の養成、後者はより広範な意味を含めた「保育者」として、明確に使い分けていることを予めことわっておく。

2 ）専門学校と短期大学通信教育との併修制度に関しては、藤田（2014）に詳しい。

3 ）一方で前掲の藤田の報告は、併修制度の現状と課題という、いわば「制度そのもの」について考察したものであるため、保育者養成という点について言及はされているものの、それが研究の主眼ではないともいえる。

4 ）しかし本科目が保育者養成校における実施科目であったことから、初・中等教育の教職課程における同科目と比較した際、どうしても保育・幼児教育寄りの内容にその配分が傾いたという事実は否めない。こうした科目計画の困難さに関しては、この「教育原理」という科目の持つ特殊性ゆえのものであるということが、先達の指摘の通りであったことを実感した。

5 ）教材として視聴したのは、横峯吉文氏が提唱した幼児教育法「ヨコミネ式教育法」の紹介部分である。

6 ）この回のみ諸事情により、担当者（筆者）ではなく、A校の（専任）教員が授業を代行した。本来予定されていた授業は、現行の幼稚園教育要領等にも謳われている「生きる力」に関する概説であ

った。そうした意図を汲んだかどうかはさておき、前述の映像教材視聴ならびにそれに対するリアクションペーパーの作成がこの回の授業内容であったとの業務報告を、筆者は別の教員から後日受けた。ところが時期を同じくして、代行を担当した教員が休職、そして後には退職したという出来事があり、この回の映像教材の出典についてを知る機会は終ぞ失われてしまった、という経緯がある。

7 ）当該授業を担当する非常勤講師として採用されるにあたり、初回授業の前週末に採用面接を受け、内定を得たという経緯があり、そもそも準備期間自体が不足していたということも要因の一つには挙げられる。

8 ）質問項目 4 に関しては複数回答可であったため、割合の算出は行わなかった。

9 ）同上。

10 ）なお質問項目 4 については、回答者の属性に偏りが生じたため、クロス集計は行わなかった。

11 ）これ以降の割り切れない数値は、おおよその値で示した。

12 ）同上。

13 ）表 3 より算出。

14 ）表 4 より算出。

15 ）同上。

16 ）同上。

17 ）同上。

引用・参考文献等一覧

一般社団法人全国保育士養成協議会　http://www.hoyokyo.or.jp/ （最終閲覧日 2018 年 1 月 29 日）

小熊 伸一，2017,「テキストブック「教育原理」に関する書誌的研究」中部大学現代教育学部『現代教育学部紀要 Vol. 9』.

菅原 健太，2016,「教職課程「教育原理」におけるアクティブラーニングの意義と課題」豊岡短期大学紀要委員会『豊岡短期大学論集 第 13 号』.

曽田 裕司，2014,「保育者養成のための教育原理における系統主義と経験主義をめぐる諸問題」学校法人ワタナベ学園 越谷保育専門学校『越谷保育専門学校研究紀要 第 2 号』.

高橋 真義，2017,「大学職員に教員感覚を体感させる「一日先生」の可能性 ―「教学支援特論」「実践的ＦＤとＳＤ」での実践報告―」桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科『大学アドミニストレーション研究 第 7 号』.

田中 亨胤，2017,『教育原理』（第 3 版） 豊岡短期大学通信教育部.

知念 渉，2017,「教育原理では何が教えられてきたのか ―教育原理の教科書分析―」日本教育学会『第 76 回 発表要旨集録』.

中村 弘行，2010,『人物で学ぶ教育原理』三恵社.

藤田 祥子，2014,「短期大学通信教育と併修制度 ―ビジネスモデルの現状と課題―」桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科 研究成果報告.

（受理日：2018 年 2 月 26 日）